

# 若年層の芸能人における心理的特性

- 過剰適応傾向と承認欲求に注目して -

木下 縁

(学籍番号：20PS1009, 指導教員：金沢吉展教授)

## 問題と目的

芸能人の自殺や精神疾患による活動休止の報道をよく見聞きするようになったが、労働環境の特殊さや過酷さによりメンタルヘルスの不調を起こしやすい芸能人に対する、メンタルヘルス支援は行き届いていない現状がある(森崎, 2022)。芸能人への支援を検討する上で、芸能人の心理的特性を明らかとすることは重要であり、本研究では過剰適応傾向と承認欲求に注目した。

過剰適応傾向とは、過剰適応へのなりやすさのことであり、過剰適応とは、内的な欲求を抑えてでも外的な期待や要求に応える努力を行うことである(石津・安保, 2008)。承認要求とは、他者から望ましい評価を得ようとする欲求で、賞賛獲得欲求と拒否回避欲求の独立した2つの欲求からなる(菅原, 1986, 1998)。先行研究において、過剰適応に承認欲求が影響を与えることは明らかとなっているが(益子, 2008; 岩永・大山, 2023)、承認欲求を2つの独立した欲求としてそれぞれの影響を検討した研究は少ない。

芸能人がメンタルヘルスの不調を起こしやすいという問題において、若年層(青年期後期～成人期前期)の芸能人への支援は重要な課題である。坂田他(1965)は、青年期における適応の問題は他の時期以上に重大であると指摘している。そのため、過剰適応傾向に注目する本研究では若年層を対象とし、若年層の芸能人の心理的特性を検討する。

本研究では、賞賛獲得欲求と拒否回避欲求は過剰適応傾向に影響する、との仮説を立てその検証を行うとともに、若年層の芸能人と芸能人以外の人との間における過剰適応傾向と承認欲求の差、芸能活動の頻度と過剰適応傾向、および承認欲求との関連を探索的に検討し、支援・予防策や今後の研究の方向性を検討することを目的とした。

## 方法

### 1. 調査方法

2023年10月25日から2023年11月30日に、10～30代の芸能活動を行っている者および芸能活動を行っていない者を対象に Qualtrics による

Web 調査票を使用した質問紙調査を行った。回答者には500円のデジタルギフトを送付した。

### 2. 調査内容

フェイスシート(年齢、性別、過去1年間で芸能活動を行ったかどうか、芸能事務所に所属しているかどうか、所属している場合、活動頻度は月に何日程度なのか)、賞賛獲得欲求・拒否回避欲求尺度(小島・太田・菅原, 2003)、成人用過剰適応傾向尺度(Over-Adaptation Tendency Scale for Adults: 以降, OATSAS)(水澤, 2014)について回答を求めた。質問紙の冒頭で、回答は任意であることなどを説明し、倫理的配慮を行った。

### 3. 用語の定義

**芸能人**：芸能事務所に所属し、月に1回以上芸能活動をしている者。

**芸能活動**：撮影や収録、舞台や公演に加えて、稽古や自主練習、SNSでの活動の告知などを含む活動で、SNSでの活動に関係のない日常的な投稿は芸能活動には含まれない。

## 結果

第一に、過剰適応傾向に対する、賞賛獲得欲求と拒否回避欲求の影響と交互作用の有無を検討するため、賞賛獲得欲求尺度、拒否回避欲求尺度の得点および交互作用項を独立変数、OATSASの得点を従属変数として階層的重回帰分析を行った。その結果、賞賛獲得欲求も拒否回避欲求も過剰適応傾向に有意に影響し、拒否回避欲求の方がより強い影響を与えることが明らかとなった(Table1)。

Table1 OATSAS に対する階層的重回帰分析(全対象者/N=58)

	B	SE B	$\beta$	t 値
Step1				
賞賛獲得欲求	.271	.081	.326	3.340***
拒否回避欲求	.594	.101	.576	5.898**
$R^2$	.483			
AdjR <sup>2</sup>	.465***			
Step2				
賞賛獲得欲求	.259	.080	.312	3.242***
拒否回避欲求	.578	.099	.561	5.822**
交互作用項	1.533	.884	.167	1.734†
$R^2$	.511			
AdjR <sup>2</sup>	.483***			
$\Delta R^2$	.027†			

\*\*\* $p < .01$ , \*\* $p < .001$ , † $p = .089$

交互作用の下位検定を行った結果、賞賛獲得欲

求も拒否回避欲求も高い場合の方が低い場合よりも強い効果を及ぼすことが明らかとなった。

第二に、芸能人と大学生の過剰適応傾向および承認欲求の程度の差を検討するために、対象者の属性（芸能人/芸能人以外）を独立変数、各尺度の得点を従属変数として対応のない *t* 検定を行った。その結果、芸能人は賞賛獲得欲求が有意に高いことが示されたが、過剰適応傾向の差は有意傾向に留まった (Table2)。

Table2 各尺度得点における *t* 検定

	属性 (N)	平均	標準偏差	F値 (df)	t値 (df)
OATSAS	芸能人 (28)	51.179	8.033	2.198	1.803†
	芸能人以外 (30)	47.733	6.486	(2,58)	(56)
承認欲求	芸能人 (28)	63.571	12.155	.306	2.906**
	芸能人以外 (30)	54.867	10.647	(2,58)	(56)
賞賛獲得欲求	芸能人 (28)	33.179	7.097	.674	5.632***
	芸能人以外 (30)	22.533	7.281	(2,58)	(56)
拒否回避欲求	芸能人 (28)	30.393	7.704	.544	-1.022(n.s.)
	芸能人以外 (30)	32.333	6.676	(2,58)	(56)

\*\**p* < .01, \*\*\**p* < .001 †*p* = .077

年齢による影響を統制したうえで過剰適応傾向に差があるかどうか検討するため、対象者の属性を独立変数、OATSAS の得点を従属変数、年齢を共変量とした共分散分析を行った。その結果、芸能人の得点が有意に高いことが示された (Table3)。

Table3 OATSAS における共分散分析

	属性 (N)	推定平均値	標準誤差	F値 (df)	t値 (df)
OATSAS	芸能人 (28)	51.623	1.451	4.154*	2.038*
	芸能人以外 (30)	47.319	1.397	(1,55)	(55)

共変量=年齢, \**p* < .05

最後に、芸能活動の頻度と承認欲求および過剰適応傾向の関連を検討するために、1カ月の活動日数（以降、活動頻度）と、各尺度得点との相関分析を行った。その結果、活動頻度はどの尺度とも相関を示さないことが明らかとなった。

## 考察

これらの結果から、過剰適応傾向と賞賛獲得欲求が高いことが若年層の芸能人の心理的特性であり、拒否回避欲求の高さは若年層全体の特性である可能性が示唆された。過剰適応傾向は様々なメンタルヘルスの不調に繋がるリスク因子である。賞賛獲得欲求は周囲の評価の高さがキャリアに直結する芸能人にとって必要な欲求であるとも言えるため、賞賛獲得欲求が高いことがメンタルヘルスの不調を引き起こすと捉えるのは早計だが、承認欲求が適応の問題や不安に影響することが明らかとなっている (石津・安保, 2008, 2009) ため、

間接的にメンタルヘルスの不調に影響する可能性は十分考えられる。そのため、若年層の芸能人はメンタルヘルスの不調を起こすリスクが高い可能性が示唆されたと言えよう。

過剰適応傾向に拒否回避欲求が強い影響を与えることと、芸能人の拒否回避欲求が芸能人意外と有意差がないことを踏まえると、芸能人の過剰適応傾向の高さには他の要因が関わっている可能性が示唆された。また、活動頻度は過剰適応傾向や承認欲求に関連せず、活動内容や本人の意識などの他の要因に関連する可能性が高い。

以上のことより、芸能人のメンタルヘルス不調の予防策として、短いスパンでのストレスチェックの実施、芸能人および事務所や放送局などのスタッフへの心理教育が挙げられる。そして、これらを行うことで、芸能人を取り巻く環境の改善にも繋がると考えられる。

今後の研究では、より多くの芸能人を対象に他の職種との比較研究を行い、芸能人の特性を明らかとすることや、質的研究によって困難体験や適応までのプロセスに関する探索的な検討により、芸能人への支援の礎を築くことが期待される。

## 主要引用文献

- 小島 弥生・太田 恵子・菅原 健介(2003). 賞賛獲得欲求・拒否回避欲求尺度作成の試み 性格心理学研究, 11, 86–98.
- 水澤 慶緒里(2014). 成人用過剰適応傾向尺度 (Over-Adaptation Tendency Scale for Adults)の開発と信頼性・妥当性の検討 応用心理学研究, 42 (2), 82-92.
- 森崎 めぐみ(2022). 芸能人の過酷な労働実態 世界, 960, 207-217.
- 菅原 健介(1986). 賞賛されたい欲求と拒否されたくない欲求——公的自意識の強い人に見られる 2 つの欲求について—— 心理学研究, 57(3), 134-140.

## 付記

本研究は著者による 2023 年度心理学科卒業論文「若年層の芸能人における心理的特性 - 過剰適応傾向と承認欲求に注目して -」における研究の一部として行われた。